

「REIC 防災セミナー（第 18 回）特別企画」開催報告

REIC 防災セミナー（第 18 回）特別企画を、6 月 16 日（火）16 時より日本財団ビルにて開催しました。



講師 防災科学技術研究所 林春男理事長

定時総会終了後に開催されたセミナーは、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下防災科研）の林春男理事長をお招きし「平成 28 年熊本地震に生きる SIP の成果」と題して、平成 28 年 4 月に発生し大きな被害をもたらした熊本地震において、防災科研における SIP の研究成果を活かした現地での取組についてご講演頂きました。

SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）とは、社会的に不可欠で、日本の経済・産業競争力にとって重要な課題を府省・分野横断的に取り組むものです。防災科研では、その中で防災分野（レジリエント防災・減災機能の強化）に携わり「災害情報収集システム及びリアルタイム被害推定システムの開発」や「ICT を活用した情報共有システムの開発及び災害対応機関における利活用技術の研究開発」などを推進しています。



REIC 防災セミナー会場（日本財団ビル）

平成 28 年熊本地震は、4 月 14 日の M6.5 の地震に始まり、16 日深夜には M7.3 の地震が発生し、震源域も熊本県から大分県に渡る 160 km におよび、甚大な被害をもたらしました。

防災科研では、災害対策基本法に定められた指定公共機関として、発災直後から全所的な体制を構築し、被害状況の把握や被災者支援への対応に取り組んでおり、その中でも、地震観測網のデータを活用したリアルタイム地震被害推定は、通常の被害推定方式では被害を予測できなかった M6.5 の地震においても正確な被害パターンを発災後 10 分間で推定するなど、現地で活動する多くの市町村に対し情報提供致しました。また、災害情報の府省庁連携では、熊本県庁に置かれた国の現地災害対策本部において 200 種類（道路閉鎖状況、上水道の復旧、避難所の位置と避難者数など）以上の地図を現地で支援活動する多くの機関に提供し、効果的に情報共有を図ることを可能にしました。さらに、被害の大きかった熊本県益城町では、罹災証明交付場所の設営を支援し、被災住民が求める罹災証明交付を円滑に進めるための支援活動の状況報告も行われました。防災科研では引き続き現地での支援活動を継続する中で、今後、SIP の研究成果を広く活かされることに期待をしたいと思います。